# 一 結婚式関連のスピーチ

## お見合いでのあいさつと口上

### 開始時の仲介人のあいさつ

心得 それぞれの経歴や趣味などの紹介が中心になるが、会話のきっかけになりやすい、具体的な話題を織り込む。なごやかな雰囲気になるよう工夫する。

**《こんな言葉も使える》**

**【合縁奇縁（あいえんきえん）】**

人と人との縁というのは不思議なもので、赤の他人同士が、ふとした巡り合わせでかかわりができる。類句に、「縁は異なもの」「袖振り合うも他生（たしょう）の縁」「躓（つまず）く石も縁の端」などがある。

**◆――仲介人が男性の父の友人の場合**

本日は、わざわざ拙宅までお運びいただき、まことに恐縮に存じます。くつろいだお気持ちで、自由にお話しいただいて、よいご縁を結ぶことができればと存じまして、お席を設けた次第でございます。

私は、本日のお世話をさせていただきます＊＊でございます。こちらは家内の＊＊でございます。実は、こちらにいらっしゃる○○君のお父様と私は、高校以来の友人で、もう四十年近くもおつきあいをさせていただいております。また、××さんは、家内のところへお花の稽古にかよってくださっているお嬢さんで、そのようなご縁から、本日の仲介のお役目を仰せつかりました。まずは簡単に、お二人をご紹介させていただきます。

○○君は、昭和○○年○月に当市でお生まれになり、○○小学校、○○中学校、○○高校と進まれ、○○大学経済学部をご卒業なさいました。現在は○○株式会社の宣伝部にお勤めです。スポーツはなんでも好きという青年で、週末にはフィットネスクラブへ体を鍛えに行かれるとのこと。中学、高校では陸上部に所属し、インターハイにも出場の経験がございます。大学ではラグビー部に入り、その俊足を生かして大活躍なさいました。お仕事のほうも、俊足ならぬ敏腕をもって着々と成果をあげていらっしゃいますが、仕事熱心なあまり結婚のことはお忘れになっていたご様子で、いつのまにか三十二歳になってしまったとのことです。「待てば海路の日和（ひより）あり」といったところが本心のようですが、さすがに　もうそろそろ　というお気持ちが強くなって、私のほうへお話がございました。ご覧になっておわかりのとおり、気力、体力ともにすぐれた好青年でいらっしゃいます。

こちらにいらっしゃいます××さんは、昭和××年×月に××県××市でお生まれになりました。小学校、中学校、高校時代は、銀行にお勤めになっていたお父様の転勤で、富山、青森、広島などで過ごされました。××女子大文学部を卒業後、××株式会社へご就職になり、現在は総務部のお仕事をなさっています。子どものころから日舞を習い、いまはお茶、お花、お料理と、ひととおりのお稽古ごとはクリアしておいでです。特にお料理は、お茶席の懐石料理までお作りになるほどの腕前です。ご趣味はテニスと映画鑑賞ということで、古式ゆかしい素養と現代的なセンスとを、バランスよく兼ね備えた、非常に立ち居振る舞いの美しい女性でいらっしゃいます。

お二人のプロフィールをざっとご紹介してまいりましたが、私どもには、たいへんよいご縁のように思われ、本日の仲介をさせていただけますことを喜ばしく存じております。○○君は、心の温かい、どちらかと申しますと家庭的な方をというご希望でしたし、××さんもまた、ご結婚のあかつきには、お仕事よりも、これまで思い描いてきた理想の家庭の実現を第一に考えたいとのお話でございました。人生に対する考え方も、慎重で堅実なところがよく似通っておいでです。

しかし、なんと申しましても、お二人の気持ちがいちばん大切ですから、ご紹介はこのくらいにして、本日は心ゆくまで、じっくりとお話をなさってみていただきたいと存じます。

**【結婚前には両目を大きく開いてみよ。結婚してからは片目を閉じよ。】**

イギリスの聖職者トーマス＝フラーの言葉。

結婚する前は、相手が将来生活をともにしていくのに適切な人物であるかどうか、両目を開いてよく観察し、熟慮する必要がある。しかし、結婚後は片目をつぶって相手の欠点も見逃すくらいの寛容さがないと、結婚生活はうまくいかないという意。

**【袖振り合うも他生の縁】**

道行く見知らぬ他人と袖が触れ合うのも、前世からの縁があるためだという意。ちょっとした物事でも、その因縁は前世から現世に、さらに来世にもつながっているという、仏教の輪廻思想から出た言葉。

# 五 ビジネス関連のスピーチ

## 初日のあいさつ

### 新任所属長から

心得 上役とはいえ、その部署においては新参者なので、謙虚な話しぶりを心がける。部署の感想や今後の決意を控えめに語る。

**《こんな言葉も使える》**

**[地の利は人の和にしかず]**

『孟子』にある言葉。

地形は有利であっても人の団結力には及ばない。もっとも大切なのは人の和であるという意。

**◆──就任のあいさつ（部外から異動で来た場合）**

このたびこの○○店の店長を命じられました○○です。

××店より移ってまいりまして、皆さんには今日初めてお会いしましたが、皆さんの目の輝き、意欲に燃えたまなざしをたいへん心強く感じ、少々緊張してもいます。

前任の△△店長のもとでは、売り上げが常に上位に入っていたということですので、これまでのやり方を尊重しつつ、工夫できるところは積極的に改善しながら進めていきたいと考えております。

今はまだ、業務内容は皆さんのほうがよくご存じですから、今後の具体的な方針についてはまたの機会にさせていただきますが、今日は私の信条とするところを一つだけ、皆さんにお話ししてごあいさつに代えたいと思います。

それは、物を売る仕事には想像力が欠かせないということです。共感力と言ってもよいかもしれません。お店においでになるお客様それぞれにお人柄や環境があり、そのご心情を察することができなければ、お客様のニーズに応えることはとうていできません。かといって、そればかりでは、商売が成り立っていきませんから、お客様の立場、商品を製造する立場、売る立場と、この三つを総合的に考えることができる店を追求していきたいと思っております。

さしあたっては、皆さんの顔を覚えるところから始め、少しずつこの店に慣れていきたいと思います。ご意見などありましたら、どうぞ積極的に話していただいて、この新しい顔にも一日も早くなじんでいただきたいと思います。

皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

**◆──就任のあいさつ（部内で昇進した場合）**

気心知れた皆さんですので、改めてというのも何ですが、一言ごあいさつ申し上げます。

四月一日をもちまして、総務部経理課の課長に就任いたしました○○です。前課長の××さんが××支店に異動され、私が引き継ぐことになりました。

課長が代わったといっても、経理の仕事にはなんら変わりはありません。私も、一晩寝て、昨日と今日で何か大きく変わったかと申せば、せいぜい髪や爪が伸びたという程度のものです。格別申し上げることもありませんので、あいさつのほうは、このくらいでお許しいただきたいと思います。

なお、これまで私が担当しておりました業務は、△△さんが後任として引き継いでくださることになりました。△△さんは、このたびの人事で業務部から移ってこられました。ここでのやり方に慣れるまで、多少の時間が必要でしょうから、皆さんでいろいろ教えてあげてください。

それでは、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

**[苟（まこと）に日に新たに、日日に新たに、又（また）た日に新たなり]**

『大学』にある言葉。自分の行いは、昨日よりも今日、今日よりも明日というように新しく、向上するように心がけるべきだという意。

**[全体は個人のために、個人は全体のために]**

フランスの作家、アレクサンドル＝デュマの言葉。

チームプレーをするときの考え方を表している。何かが別の何かのための犠牲になるのではなく、どちらにとってもよりよいあり方を目指す。

# 一 間違えやすい言葉の使い方

## 結びつきの決まった言葉

### 合う

**息が合う**
何かを一緒にする時、調子がよく合って気持ちが一つになる。
用例 あのコンビはぴったり息が合っている。

**馬が合う**
気持ちがうまく合う。一緒にうまくやっていける。
用例 彼とはどうも馬が合わない。

**口に合う**
食べ物の味や好みが合っている。
用例 お口に合うかどうかわかりませんが、お召し上がり下さい。

**性(しょう)に合う**
もって生まれた性質や好みに一致する。
用例 秘書という仕事は私の性に合っているようだ。

**肌が合う**
気性が合う。気が合う。
用例 彼とは不思議と肌が合う。

### 上げる

**気炎を上げる**
得意げに元気のいいことを言う。
用例 喫茶店の一角では若い人たちが何やら気炎を上げている。

**気勢を上げる**
仲間で叫んだり、活発に動いたりして、元気のいいところを見せる。
用例 地元住民が集会を開いて気勢を上げている。

**棚に上げる**
自分に不都合なことはわざと手をつけずそっとしておく。
用例 自分のことは棚に上げて。

**手を上げる**
① 降参する。また、手に余って途中で投げ出す。
用例 悔しいけれどもう手を上げるしかないだろう。
② なぐろうとしてこぶしをふりあげる。
用例 親に手を上げるなんてもってのほかだ。

**熱を上げる**
夢中になる。
用例 アイドル歌手に熱を上げていた昔が懐かしい。

**音(ね)を上げる**
弱音を吐く。
用例 今年の新入社員は、研修期間の半分もいってないのに、もう音を上げた。



### いい

**筋がいい**
将来伸びる素質がある。
用例 彼女はテニスの筋がいいからすぐうまくなるだろう。

**手回しがいい**
用意や手配などが、前もって行き届いている。
用例 二次会の会場まで予約してくれるとは手回しがいいね。

**歯切れがいい**
ものの言い方がはっきりしているさま。論旨が明快な様子。
用例 このサッカー解説者は、歯切れがいいのでとても聞きやすい。

**分(ぶ)がいい**
有利な情勢を得ている様子。
用例 一回戦から分がいい相手に当たってラッキーだ。

**虫がいい**
自分勝手でずうずうしい。
用例 めんどうな仕事は自分でやらないで人に回すんだから、虫がいいにもほどがある。

### 入れる

**肩を入れる**
熱心に応援する。ひいきにする。
用例 ひいきのチームに肩を入れるのもほどほどにしてほしい。

**活を入れる**
① 気絶した人の息を吹き返させる。
② 刺激を与えて、気力を起こさせる。
用例 沈滞ムードに活を入れた。

**力を入れる**
あることを実現させるため、熱意をもって努力する。
用例 今度の内閣は物価対策に力を入れている。

**手に入れる**
自分のものにする。入手する。
用例 かねてから欲しいと思っていたものをやっと手に入れた。

**本腰を入れる**
物事に本格的にとりかかる。
用例 片手間にやっていた翻訳の仕事にようやく本腰を入れ始めた。

**耳に入れる**
人に告げ知らせる。
用例 このことは母親にだけは耳に入れておいたほうがいい。

**身を入れる**
一生懸命何かをする。
用例 受験が近づいたためか、ようやく息子も身を入れて勉強するようになった。

### 打つ

**先手を打つ**
あらかじめ予測される事態や相手の行動に対し対策を講じたり、それより先に行ったりして、優位な位置につくようにする。
用例 世の中が不況になる前に先手を打って商売替えをした。

**手を打つ**
① 手のひらを打ち合わせる。
用例 手を打って喜ぶ。

# 二 季節を表す言葉

## 季節感を表す言葉

### 春

**春一番**［はるいちばん］
季節が春に変わる頃に吹く、立春後の最初の強い南風。

**東風**［こち］
冬の季節風がやみ、東寄りの方から吹いてくる風。

**斑雪**［はだれゆき］
うっすらと降った雪。また、まだらに消え残った雪。気温が上がり、冬期間に積もった雪が解けて斑になってきた状態をいう。

**雪形**［ゆきがた］
春、高い山の雪解けが始まり、山肌に雪が残った形を馬・鳥・人などに見立てたもの。かつては雪形の出現を、農作業進行の目安にしたり、農作物の出来を占ったりした。

**山笑う**［やまわらう］
春の山が明るくおっとりと見える様子。

**桃の節句**［ももせっく］／**雛祭り**［ひなまつり］
三月三日。主に女児の健やかな成長を願う祭り。雛壇に雛人形を飾り、桃の花を供え、菱餅や白酒で祝う。

**白酒**［しろざけ］
もち米・味醂などを材料として作った濃厚な白色の酒。甘味が強く、独特の香気がある。雛祭りに供える。

**社日**［しゃじつ／しゃにち］
春分・秋分の日に最も近い戊の日。春は豊作を祈り、秋は収穫に感謝する。

**日永**［ひなが］
春分を過ぎ、昼間が長くなること。

**野焼き**［のやき］
早春、新しい草がよく生えるように、野の枯れ草を焼き払うこと。虫の駆除になり、灰は肥料になる。

**猫の恋**［ねこのこい］
春に猫が発情して鳴きたてること。

**陽炎**［かげろう］
大気に温度差が生じることにより光が不規則に屈折し、風景が揺らいだように見える現象。

**うららか／長閑**［のどか］
空が晴れ、太陽が照り輝く、よい陽気でのんびりした様子。

**東大寺お水取り**
奈良の東大寺で三月一日～十四日まで二月堂で行われる法会の中の行事。十二日夕刻より籠松明十二本を回廊で振り回す「お松明」を行い、午前二時ごろ若狭井から汲んだ香水を本堂の仏前に供える「お水取り」をする。

**朧**［おぼろ］
春の夜がぼうっとかすんで見える現象。春に多い湿った南風の影響で水蒸気がたちこめるため。昼の場合は霞とよぶ。

**花祭り**［はなまつり］／**灌仏会**［かんぶつえ］
四月八日。釈迦の生誕を祝う行事。花御堂の中に水盤を置き、そこに安置した誕生仏に甘茶を注いで拝む。誕生仏とは、生後すぐに歩き出し右手で天を指し左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と唱えたといわれる釈迦の姿をかたどったもの。甘茶を注ぐのは、この誕生時に八大竜王が現れ、甘露の雨を降らせて湯浴みさせたという故事による。

**つちふる／黄砂**
モンゴルなど大陸の砂漠の砂塵が風に巻き上げられて空を覆い、日本まで運ばれ、降ってくるもの。

**壬生狂言**［みぶきょうげん］
四月二十一日から二十九日にかけて京都市の壬生寺で大念仏法要を営む間、毎日演じられる狂言。念仏の理念を一般大衆に説くため、狂言の身ぶりを用いたものという。

**潮干狩り**［しおひがり］／**磯遊び**［いそあそび］
引き潮の浜で貝や魚などを獲ること。陰暦三月三日から七日頃の大潮、十日頃の長潮と、春は一年で最も潮の干満が大きく、浜は遠くまで干上がるため、干潟遊びが楽しめる。

**菜種梅雨**［なたねづゆ］
「菜種」はアブラナ。それが咲く三月中旬から四月にかけての長雨。

**花曇**［はなぐもり］
桜が咲く頃の曇り空。桜の花を養う曇天、の意味で養花天ともいう。

**桜前線**［さくらぜんせん］
ソメイヨシノの開花日を同じくする地点を結んだ線。

**紫雲英田**［げんげだ］
「紫雲英」はレンゲソウ。それを肥料や家畜の飼料用に栽培する畑。

**蛙の目借り時**［かわずのめかりどき］
カエルが盛んに鳴く頃の、眠気を催す春暖の時期。

**八十八夜**［はちじゅうはちや］
立春から数えて八十八日目にあたる日。五月二日または三日。「八十八夜の別れ霜」といい、農事に適した時期となるため、農繁期に入る。茶摘みの最盛期にもあたる。

**端午の節句**［たんごのせっく］／**鯉幟**［こいのぼり］／**菖蒲湯**［しょうぶゆ］
「端午の節句」はもともと物忌みや悪霊払いを行う日だった。後に、この時期に咲く菖蒲が「尚武（武道を重んじる）」に通じるため、男児の出世や武運長久を祈る節句となった。男児のいる家では柏餅や粽を用意し、武者人形を飾り、鯉幟をあげる。菖蒲湯に入る習慣もある。

**子安貝**［こやすがい］
殻は卵形で光沢があって厚く堅い。古くから安産のお守りとされた。